

令和6年度 学校評価・学校関係者評価書

学校名	稲美町立母里小学校
-----	-----------

1 学校運営の目標・方針

「自ら学ぶ意欲と 他を思いやる優しい心をもち 未来をたくましく生きる児童の育成」
～ 自分もひと大切にする母里っ子 ～

2 本年度の重点目標

1「地域と共にある学校作り」の推進

2 生徒指導の充実

3 研究・研修活動の充実

4 危機管理体制の整備

3 学校自己評価結果 A: 十分達成している。(そう思う) B: おおむね達成している。(ややそう思う)
C: どちらかというよう達成されていない。(あまりそう思わない) D: ほとんど達成されていない。(そうは思わない)

4 総合的な学校関係者評価

- ・クラス行事などが、保護者参観可能になったことで、普段の学校の様子を今年度より多く知る機会に恵まれた。運動会では地域連携競技や、2月のチャレンジランキング大会では、地域と学校が一体となって楽しめた。今後も地域と共にある学校作りを推進してきたい。
- ・クラスの子どもの仲が非常に良く、結束力が高い。これは、学校に自分の居場所があるためだと考えている。この環境は、子どもたちが受け身の授業を先生方が作っているのではなく、発言する機会を多く設け、意見を交流し、また、1人1台端末を効果的に使い、わかる授業を展開してくれていることで作られていると感じている。
- ・子どもたちが安心・安全に過ごせる学校作りは、先生方が子どもたちを日々丁寧に観察し、小さな変化に気が付き、悩みが大きくならないように適切なタイミングで対応していただけているからだと感じている。
- ・外部講師を多く招聘し、各分野において専門的な学習を取り入れることにより、子どもたちが自分の得意な分野や好きな分野を知る

5 評価項目ごとの学校関係者評価

- 学校自己評価の結果及び改善案についての評価
- ・ホームページはわかりやすく、学校の様子を知る大きな情報源となっている。子どもたちの様子はもちろんのこと、行事における学校の思いを感じ取ることができ、いつも楽しみにみている。ホームページをきっかけに、家庭で学校のことを話せる時間が増えた。学校に行く機会が多く取れない中で、子どもとの会話は、学校での子どもたちの様子を聞くことができ、喜んでいる。
 - ・学校行事の時期については適切であると思う。行事を通じて学年ごとに様々な経験ができ、集団の中で、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通して、一人一人の資質や能力が高まっている。
 - ・学校は学習環境を整えるために清掃に力を入れていることがよく伝わる。体育館の用具入れが隔々まで清掃され、整理整頓されていることに驚いた。いつまでも気持ちが良い。子どもたちがよく使用する教室などは清掃が行き届いていると思う。
 - ・子どもの自殺者数の増加、不登校児童の増加が社会問題となっている。目の前にいる子どもを支援するためには、児童にとって最もよいことを第一に考える職員集団が必要である。その職員集団が母里小学校にある。これからは社会の固定概念にとらわれず、個々の違いや複雑性を大切にしたい。見方子どもに寄り添っていただきたい。
 - ・登下校では、児童数の減少と共に、歩いて登校する児童も減少してきていることを残念に思う。学校では、通学路の点検や、安全に登下校できるよう指導をしていただいているが、送迎する保護者が増えている現状が気になる。
 - ・1人1台端末を活用した授業の取り組みが、子どもたちのわかる授業、自ら学ぶ意欲に繋がっていることがわかる。しかし、1人1台端末に頼りすぎないという意識を持つことが大切である。必要な場面での活用を今後も継続していただきたい。
 - ・1人1台端末を使ってプレゼンテーションをする姿を2月の授業参観で見ることができ、わが子の成長を感じ嬉しく思った。子どもたちがそれぞれの課題について自分で考えたことを表現し、相手に伝えるための工夫がなされている授業に感動した。
 - ・「兵庫型学習システム」や「学びのサポート」が有効に活用されている。特に、中学年の「学びのサポート」による支援が効果的である。
 - ・子どもたちと先生が作り上げる授業が魅力的なためか授業参観時の保護者の態度が良くなったという声も聞かれた。
 - ・子どもたちの携帯電話の利用の拡大に伴い、「ネット上のいじめ」や有害サイトを通して子どもが犯罪に巻き込まれる危険性が、社会的に大きな問題になっていることを踏まえ、今まで以上に情報モラル学習の必要性を感じている。
 - ・家庭学習の自律はとても大切なことはあるが、個人差もあり、自学できる子どもとできない子どもでは最終的に差ができてしまうのではないかと不安にもなる。今後の課題である。
 - ・道徳の授業では、他者の考えを知ることのできる機会なので、これからは活発な意見交流のある授業を継続していただきたい。
 - ・図書ボランティアや書写ボランティア、読書会など学校活動のお手伝い、といったボランティア活動が母里小学校では活発である。これは、地域の強みである。今後も学校の風通しを良くし、よりよい学校運営に繋がるボランティア活動を継続させていきたい。
 - ・読書は人を育てる。本を読むことが好きな子どもを育てたい。稲美町で行われている「ビブリオバトル」への参加は、児童に自信をつけるためのよりよい機会だと考える。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
学校運営	学校教育目標や学校経営方針を教育活動に反映し、日々の教育活動を学校だより・学級だより・ホームページ等で分かりやすく伝えている。	A	「地域とともにある学校づくり」に向けて、学校教育目標や学校経営方針を示している。あわせて、学校だより、学年だより、保健だより、図書だより、コミスク通信等を定期的に公開した。また、学校行事や日々の教育活動を、ホームページ「MORIKO TOPICS」で、随時掲載し、各家庭や地域へ話題提供に努めた。
	学校行事の時期や内容は適切である。	A	年間を通してバランスよく学校行事を計画し、児童の発達段階や習熟度を考慮しながら、行事への取組を学級や学年、学校全体の成長につながるよう工夫した。自然学習、運動会、修学旅行、学習発表会などは児童の発達段階に応じた内容で適正な時期に実施できた。
	清掃が行き届いており、美化に努め、校舎内外の物が整理整頓されている。また、定期的に施設・設備の点検をしている。	A	教職員が定期的に安全点検を行い、破損箇所や危険箇所等はできるだけ速やかに修繕している。教室等の環境を清潔で潤いのある空間として整え、児童が気持ちよく学習活動等に取り組む、安心して過ごせるよう努めた。用務員を中心に草刈りや窓掃除など実施し、来校者から「きれいな学校ですね」との声が多く寄せられた。
	いじめ・不登校問題等への対応は適切で、教職員が一致協力できる生徒指導体制ができている。	A	児童の内心に対する共感的な理解を深め、個々の児童のよさや可能性をより発揮できるように指導する。また、学習活動全体を通じて児童の社会性を培い、自立心や自律性の育成に努めるとともに、生きる喜びと命の大切さを実感できる教育に努める。特に、いじめは、家庭や地域及び関係機関等と緊密に連携して組織的に対応する。
教育課程	危機管理マニュアルを作成し適切に運用している。登下校の安全について、点検・指導がされている。	A	毎年、年度当初に危機管理マニュアルの見直しを行っている。地域・警察・関係機関等と積極的に連携し、登下校時や日常生活の中に潜む危険、交通安全対策や不審者等への防犯対策について、児童自ら予測し、的確な判断・行動ができるように取組を進めた。
	授業方法を工夫・改善し、分かりやすい授業に心がけている。	A	児童が学習の目標や教材を理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次の計画を立て、学習の進め方を自ら調整することができるよう指導している。基礎的・基本的な知識・技能の着実な定着を図るとともに、習熟度に応じた指導や補充的・発展的な学習を取り入れるなど、指導方法を工夫する。
	評価(授業評価・学びの姿等)を通して、適切な指導をしている。	A	授業の最初に目標や評価の方法を示すなどして、児童に学習の見通しをもたせることに加え、授業の最後に学習内容を振り返る活動を取り入れるなど、児童が自らの学習の状況を把握できるように授業実践を重ねている。児童の学習力向上につながる学習評価を工夫するとともに、学習状況を把握して指導方法の改善につなげている。
	子どもに家庭学習(宿題等)や学習準備等の習慣を身につけさせている。	B	児童が落ち着いた雰囲気のもとで学習に取り組めるよう、学校での学習規律を確立するとともに、授業と家庭学習のつながりを明確にすることにより学習習慣の定着を図っている。児童が自己調整しながら学習を進めたいことができるよう、ICTを活用するなどして、個に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会の提供に努める。
課題教育	体系的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れている。	A	問題解決の方法を養う観察・実験、ものつくり等の体系的な学習活動(理科)や、数・式・図等を用いて自らの力で説明し、伝え合う活動(算数)などの充実を図っている。また、協働的な学びの場面を中心に、既習の知識等を活用しながら課題に向き合い、課題解決をめざす探究の過程を重視した学習活動を取り入れている。
	道徳の授業を大切にし、内容の充実に取り組んでいる。	B	指導のねらいに則した多様な指導方法や、児童が物事を多面的・多角的に捉え、自分自身のこととして考え、他者や自己との「対峙」により生き方についての考えを深める授業の充実を努めた。道徳性の成長の様子を適切に把握して評価し、児童が自身の成長を実感し、さらに意欲的に取り組むきっかけとなるよう工夫する。
	読書活動を充実させている。	A	豊かな人間性や学びに向かう力を育むため、一斉読書やボランティアによる読み聞かせなど、本に触れる機会の確保とともに、本や図書館資料を活用した授業の計画的な実施等、教科等の学習との連携を図った。図書だよりによって、児童に読書を通じて学ぶ楽しさや知る喜びを知らせ、自主的・自発的な読書活動を促進した。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
課題教育	生命の大切さ、共に生きる豊かな心の育成に努め、地域の人々との関わりを通して、実践的な学びを培っている。	A	生命尊重や規範意識を育む道徳教育、人権尊重の精神の涵養を図る人権教育、人間関係を築く特別活動、他者、社会、自然と関わりあふれる体験活動等を効果的に連携させながら、特別の教科「道徳」を要として、全活動を通じて生命の大切さや人権尊重の心を育むよう取り組みを進めた。
	環境体験学習・自然学校等で体験活動を充実させている。	A	3年生の環境体験学習や5年生の自然学校など兵庫県「体験教育」の推進を通して、児童の「自立」に向け、体験活動における試行錯誤の中で自己認識や自尊感情を高め、人間としての在り方や生き方を考えさせるよう取り組んだ。また、実施にあたっては、学校・家庭・地域とのつながりを深める体験活動の展開を工夫した。
	計画的に避難訓練等を実施している。	A	児童に自らの安全を守るための能力を身に付けさせるため、安全教育の推進を図り、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培う計画的に避難訓練を実施した。授業中だけでなく、業間や掃除の時間に設定したり、安全な場所への避難経路を考えたりする時間を設けた。
	外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成している。	A	異なる言語や文化をもつ人々と主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するため、発達段階に応じて、ALTとの外国語を用いたふれあいや対話の機会を充実させた。児童の割以上が外国語の活動は楽しいと答え、日常生活の中で外国語を使う児童も増えてきている。
努力目標	学校では、挨拶や人によさしい言葉遣いができるよう指導している	A	人間関係の基本となる挨拶の習慣や社会生活上のルール等を身に付けようとする態度の育成を図っている。自分もひと大切にすることを授業を使うことができているが、各学期に「いっしょに学ぶ言葉」(「言葉の力」)を行い、その挨拶から、あたためたいクラスにするためにできると考え、行動に移すよう指導している。
	学校では、友だちと協力し、互いのよさや違いを認め合える学級づくりをしている。	A	児童の自己肯定感や自己有用感を高め、可能性が共感的で安心できる居場所となるよう、互いを尊重し合い、個性や可能性を発揮し合える集団づくりや規範意識の醸成に努める。児童が特性を理解することにとどまらず、他者との関わりについて考えなど、日常の生活や学習に反映させていく。
	学校では、人の話をよく聞き、自分の思いを話せるように指導している	B	発達段階に応じて、自発的・自治的な活動を取り入れるなど自己決定の場を設け、自ら課題を見出して自らの行動を判断し、実行しようとする力を高め、達成感や味わうことができるよう工夫した。話し合い活動でみんなが納得できる結論を出し、その結論を実践につなげる活動を行うことで、学級の絆が深まってきた。
	学校では、何にもでも興味・関心を持ち、自ら学ぶ意欲を持てるよう指導している	B	学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しをもとに粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次のステップにつなげる学びとらえるよう授業改善に取り組んだ。また、児童が1人1台端末を主体的な学びや情報収集等の手段として日常的に活用できるように積極的に活用した。
努力目標	学校では、運動や食育・健康教育を通して、健やかな体の育成に取り組んでいる	A	体育を中心に、体育委員会によるドッジボール大会、アスリート派遣事業を活用し、健康の大切さを実感し、体を動かすことを楽しみにできる児童の育成に取り組んだ。また、家庭科や環境体験学習、学校給食を通して食の大切さ、そして活用した指導など様々な教科・領域で食育を実践し、学校全体で健康教育を推進した。

自己評価における特記事項

・「自分もひと大切にする母里っ子」を学校教育目標に掲げ、すべての教育活動においてこのスローガンを目標に掲げ実践してきた。特に特別活動の「話し合い活動」では、児童が自分の意見を持ち、その意見が安心して言える学級作り、自分の意見も大切にされ、相手の意見を大切にしながら結論を出し、自分たちが決めたことを実践できる学級経営に力を注いだ。その結果、少しずつ、自分の力を適正に評価できる児童が増えている。引き続き、児童の自尊感情や自己有用感を高める教育実践を行っている。

・地域とともにある学校づくりの推進に向けて、学校運営協議会を中心に、学校・家庭・地域の連携を強化し、学校行事に取り組んできた。運動会では、地域連携競技を児童主体で実行し、運動会実施後には幼稚園・こども園を招待し、一緒にダンスをしたり玉入れをしたりして交流を深めることができた。学習発表会では、実行委員会を立ち上げ、日頃お世話になっている地域の方々や幼稚園、こども園に手書きの招待状を届け、多くの方に児童の歌や演奏を聞いていただくことができた。また、2月に実施したチャレンジラン大会では、子どもと学校運営協議会が協議の結果、たくさんの方々と交流するという目的のもと、コミスクチームをはじめ各クラスが出し物を用意し会場を運営することでチャレンジ大会開催の目的を達成することができた。今後も学校は開かれた学校作りを進め、家庭や地域と信頼関係を確立するとともに、地域への愛着やふるさと意識への醸成に積極的に取り組んでいく。

- 学校自己評価の結果及び改善案についての評価
- ・各学年の体験学習行事がある時は、保護者に参加案内メールが届くので、時間に都合がないで参加することができた。クラスの中で過ごすわが子の様子や、学習の内容を知ることができ良かった。このように学校を開放してくれたら、学校を身近に感じることができ、今後この活動の継続をお願いしたい。
 - ・3年生の環境体験学習で行った植え、山歩き作り、山歩き作り、福利用り、そして収穫したもち米を用いたおはき作りまでの一連の体験は、とても素晴らしいと思う。稲美町の良さを生かした環境体験学習は、ふるさと教育にもつながるので、今後も継続を希望する。
 - ・阪神淡路大震災の経験がない世代が、学校でその時の体験談を見聞して学んだようだ。家に備わっている、子どもを交えて家族で阪神淡路大震災の話をすることをサポートすることができた。子どもにとっても家族にとっても貴重な時間となった。
 - ・防災が一番大切なことは、「自助」。自らの命が自分を守る意識を持ち、一人ひとりが自分の身の安全を守る意識が最も大切。災害が起きたとき、どんな状況下でも自分の命を守ることをこの意識で行うことが大切。子どもたちが自分の頭で考え動くという訓練を引きつづきお願いしたい。
 - ・挨拶は、人と人をつなぐコミュニケーションの手段として大切なものであること、そして言葉のやり取りは人間関係を温かいものにしてくれる。学校内で交わす挨拶だけでなく、家庭や地域でもできるようなってほしい。そのために、大人からも声をかけていくようにしたい。
 - ・それぞれの学年がテーマを決め、みんなの前で堂々と発表する授業は、自分の意見を安心して発表する学級作りができたことだ。思っている。子どもたちにとって自分の居場所がある安全・安心な学校作りができていると感じる。
 - ・「挨拶ができてよかった」「授業がよくわかる」などの項目で子どもの「はい」という割合が増えたのは、児童の自己肯定感が高まったことの表れだと思う。
 - ・1人1台端末を使ってタイピングの練習をしたり、プログラミングを学んだり、スポーツではアスリート派遣事業があったり、芸術においては、県立美術館や神戸市立美術館から美術鑑賞の仕方や水墨画を学んだり、日本文化体験授業ではお茶体験など、本当に多くの分野で個性を生かした学びにつながる体験学習を取り入れていただけた。これからは期待する。
 - ・運動・食・睡眠の大切さを学校生活全体の中で、学校は子どもたちに伝えていく。特に地域生活全体を生活した給食は子どもたちにとって毎日の食育の実践の場となっている。子どもたちが学校で学んだことを家庭生活の中で取り入れていくことが、子どもの健やかな体と心の成長につながる。これからも学校と家庭が連携しながら、健康教育に努めていく。

項目以外の点での本年度の課題や具体的改善方法

- ・子どもの小さな変化にも目を配り、誰もが悩みを一人で抱えこまず相談できる体制を整えていく。
- ・子どもが安全・安心で質の高い学びができるよう、学習環境の整備に努める。
- ・コミスクの活動を地域に広め、コミスクの行事に地域のの方々が参加できるように広報活動にも力を入れていく。
- ・子どもたちが、予測困難な未来を切り開いていくために必要な資質・能力を育成するため、ICT教育を推進していく。
- ・多くの評価項目で達成状況が低い。今の状況に満足することなく、子どもたちの心が元気になる体制作りを今後努力を重ねていく。